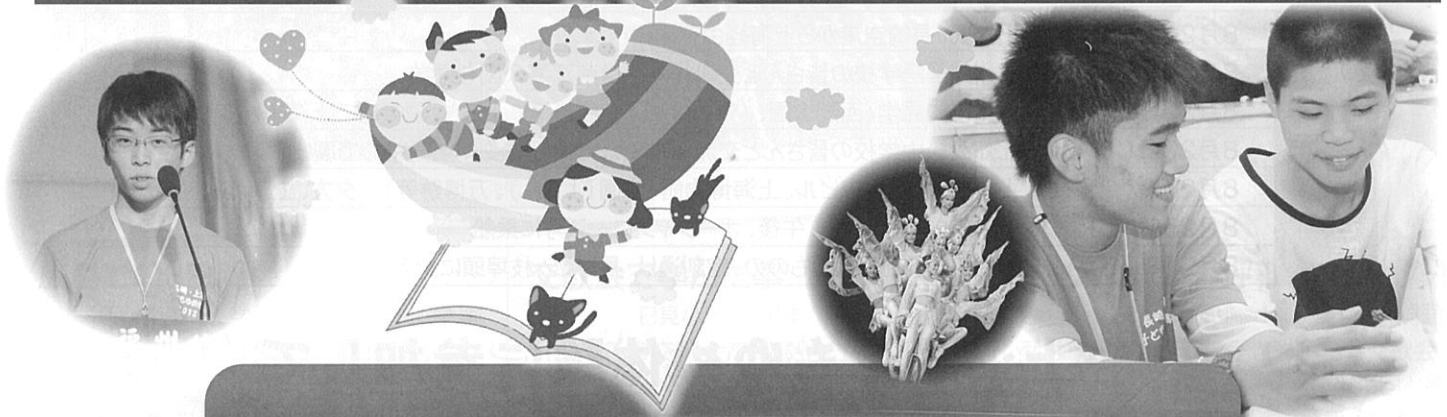


# のびゆく 長崎っ子 73

つなげ人と心 地域の輪  
子どもの出番を広げよう **きらめく長崎の子どもたち**



▲長崎・上海子どもゆめ体験の様子

## 今号の内容

- ★長崎・上海子どもゆめ体験
- ★第36回広島・長崎子ども会親善交歓会
- ★大浦中学校区青少年育成協議会の取組み
- ★子どもゆめフェスティバル '12
- ★編集後記



## 長崎・上海子どもゆめ体験

「長崎・上海子どもゆめ体験」は、次代を担う長崎の子どもたちを中国に派遣し、異文化への理解を深め、国際的な視野を広げる機会を提供するとともに、地域の子どもたちのリーダーを育成することを目的として実施されました。長崎市内の32名の中学生が、8月20日（月）～26日（日）の6泊7日の日程で、福州市と上海市を訪問し、現地の子どもたちと交流を行い、友情の絆を育みました。

### 主な日程、活動・研修内容等

8月20日（月）	出発式、長崎空港から上海経由で福州市へ
8月21日（火）	福州外国語学校の皆さんと交流 午後は南江濱公園を見学
8月22日（水）	福州市内見学（西湖公園、パンダ世界、南后街等） 夕方、飛行機で上海市へ
8月23日（木）	北郊高級中学校の皆さんと交流 午後は虹口区青少年活動中心で製紙、染物を体験
8月24日（金）	上海市内見学（森ビル、上海博物館、豫園（よえん）、万博跡等） 夕方、上海雑技団を観賞
8月25日（土）	上海市内車窓見学 午後、オーシャンローズ号に乗船
8月26日（日）	台風の影響を受けたものの、定刻通り、長崎松ヶ枝埠頭に到着

## 長崎・上海子どもゆめ体験に参加して

私は、中国と長崎が今後どのように付き合っていくべきか考えたと思った。上海は高層ビルが建ち並び、まさに大都市だった。交流を深めるためには、上海航路の活性化が必要だと思った。また、中国については実際に行かないと見えない部分もあり、今回はそのようなものもたくさん見ることができよかった。中学生のうちにこのようなすばらしい体験ができたことに感謝している。

長崎東中 3年 大浦多一郎

私がこの体験で学んだことは、相手に伝えようとする気持ちがあればコミュニケーションをはかることができるということです。上海市で交流した北郊高級中学校では、主に英語で会話しました。相手の生徒は、私の単語を並べただけの英語を理解してくれて、とても楽しい交流となりました。これからもっと英語を勉強して、国際人となるよう努力しようと思いました。

桜馬場中 3年 本田千尋

私が一番印象に残っているのは豫園（よえん）です。日本にはない建物と値段交渉をしながら買い物をしたことです。帰りのオーシャンローズ号の揺れは想像以上でしたが、良い思い出です。出発前の不安は、いつの間にか忘れ、違う学校の方とたくさん友達になることができました。多くの皆様のおかげで楽しく、安全にいろいろなことを体験することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

淵中 3年 酒井 環

「百聞は一見に如かず」という言葉がある。どれだけの発見や感動があったことだろう。参加者からは“楽しかった”という言葉とともに、驚きや喜びの体験が語られた。最終日には真剣なまなざしで「帰りたくない。もっと交流がしたい。」という声を聞いた。この体験が価値ある成果をもたらしたものと確信した。そして、同年代の生徒との交流、自然や歴史の体感、そして異文化への理解を通して学んだことは、これからの貴重な財産となるだろう。

(A班担当)生涯学習課 中村和久

今回の活動で最も印象に残ったのは福州・上海の子どもたちとの交流である。訪問先では温かく迎えられ、子どもたちはお互いに手作りの名刺を交換し、折り紙を折りながら一緒に楽しく活動をしていた。国境の壁はあるが、子どもたちの交流には何の壁もないことが実感できた。また、映像だけではわからなかった中国の文化や街の様子を自分の肌で感じ取り、参加した子どもたちはこの事業を通して国際的な視野を広げることができたと思う。

(B班担当)教育研究所 北野 憲

今回の中国訪問では、長崎市の中学生たちが、率先して英語で話そうとする、覚えたての中国語であいさつしようとする、身振り手振りで自分の考えを伝えようとするなど「参加者の意欲」を感じることができました。最近の中学生は自分の思いを伝えることが苦手だと思っていましたが、堂々と笑顔で会話している姿は国際交流という名にふさわしい場面だったと思います。今回の交流が、長崎と中国の中学生の心の懸け橋となることを願っています。

(C班担当)日吉青年の家 佐藤俊介